



国宝 舍利殿
 精神の支柱となつた禅道を弘めたいと願
 い、且つその師仏光国師への報恩の念か
 軍を撃退した時宗は、文永・弘安両役に
 殉じた彼此両軍死者の菩提を弔い、己の
 国を挙げてこの難敵に当り、蒙古の大

ずいろうさんだいえんがくこうしやうぜんじ
 (臨濟宗)
 わが国はおよそ七百年前、文永・弘安
 の二度にわたる蒙古軍の来襲という空前
 の国難を迎えた。時の執権北条時宗公は
 かねてより深く禅に帰依し、弘安の役の
 さなかにも、中国から招いた無学祖元
 (仏光国師)を師として、日夜参禅に励ん
 でいた。

えん がく じ 圓覚寺

瑞鹿山大円覚興聖禅寺

主な年中行事

大般若祈祷会	元日より三日間	方丈
臨濟禅師毎歳忌	一月十日	仏殿
百丈禅師毎歳忌	一月十七日	仏殿
涅槃会	二月十五日	仏殿
時宗公毎歳忌	四月四日	仏日庵
降誕会(花まつり)	四月八日	仏殿
観音懺法	六月十八日	山門
夏期講座	七月下旬四日間	方丈
山門施餓鬼会	八月十六日	方丈
開山国師毎歳忌	十月三日	舍利殿
達磨大師毎歳忌	十月五日	仏殿
羅漢・舍利講式	十月十四・十五日	方丈
宝物風入	十一月三日頃三日間	方丈
弁財天諷経	十一月二十八日	弁天堂
成道会	十二月十五日	仏殿
除夜念誦	十二月三十一日	弁天堂

坐禅会案内

○暁天坐禅会 (於仏殿)
 毎朝 (年始・十月初旬に休会有り、要確認)
 夏期 (四月～十月) 五時半より六時半
 冬期 (十一月～三月) 六時より七時
 ○日曜説教会 (於方丈)
 毎月第二・第四日曜日、午前九時より法話
 引き続き十一時まで坐禅
 ○土曜坐禅会 (於居士林)
 毎週土曜日 (八月中は休会)
 初めの方 午後二時二十分～二時二十分
 二回目以降 午後二時四十分～三時四十分
 (十五分前集合のこ)

◇詳細は宗務本所へ電話にてお問い合わせ頂くか、
 公式ホームページをご覧ください。
 電話〇四六七(二二)〇四七八
 WWW.engakuji.or.jp

写真撮影 荒牧万佐行氏

ら円覚寺の建立を発願した。「円覚」の寺号は寺地選定の後、この地から石櫃に入った円覚経を掘り出したことによるといわれている。開山の法灯は高峰頭日(那須雲巖寺)、夢窓



疎石(天龍寺)と次第し、世に「仏光派」と称された。殊に夢窓は南北朝「七朝の帝師」といわれ、その門流は室町時代にわが国禅界の中心的勢力を形成した。

数度の大火に遭い、衰微したこともあったが、江戸末期に中興の誠拙和尚が出て、伽藍を復興し、現今の円覚寺の基礎を固め、修行者に対して峻厳をもってし、宗風の刷新を図った。

明治には今北洪川・釈宗演の師弟のもとに雲納や居士が参禅し、関東禅界の中心となった。

居士林における坐禅会は古い歴史を誇り、秀れた人材を打ち出した。

首都圏各地からの交通の便に恵まれ、静かな境致と相まって、各種の坐禅会・夏期講座など多くの人々に親しまれ、「心の寺・円覚寺」と呼ばれ、訪れる人々に深い心の安らぎを与えている。

山内に十八ヶ寺の塔頭(支院)があり、近末には浄智寺・東慶寺・瑞泉寺・大慶寺がある。

境内案内

山門

天明三年(一七八三年)当山中興の大用国師誠拙和尚が再建。楼上に観世音菩薩・羅漢が安置されている。「円覚興聖禅寺」の額は伏見上皇の勅筆。

仏殿

本尊は宝冠釈迦如来。昭和三十九年に再建された。天井に前田青邨監修、守屋多々志揮毫の白龍の図がある。大光明宝殿。

選仏場

仏を選び出す堂宇のことで、二元の坐禅道場。一六九九年に建立。

居士林

禅を志す在家のための坐禅道場、もと牛込にあった柳生流の剣道場を、昭和三年柳生徹心居士より寄進され移築した。

方丈

「方丈」の名は、インドの維摩居士の居室が一丈四方であったことに由来する。本来は住職の居間であるが、多くの宗教行事がここで行われる。

百観音

江戸時代、拙叟尊者が百体の観音石像を奉安し、洪川老師の明治時代に整備され、震災後も一山をあげて復興につとめた。元は

塔頭松嶺院の地内にあったが、後に方丈の庭園に移された。

舍利殿

(国史)

源実朝が宋の能仁寺から請来した仏牙舍利を奉安する堂宇。鎌倉時代に中国から伝えられた「唐(から)様式」を代表し、その最も美しい建造物として国宝に指定されている。

開基廟

開基北条時宗のみたまや。堂内に時宗・貞時・高時の尊像が安置されている。

白鹿洞

当山の落慶開堂の日、開山国師の法筵に列するために、この洞中より一群の白鹿が現れたという。この奇瑞によつて当寺の山号を「瑞鹿山」という。

黄梅院

時宗夫人の覚山尼が時宗の菩提のために建立した華嚴塔の地に、後に足利氏が夢窓国師の塔所として建立した。室町時代に寺盛を極め、古文書なども多い。

洪鐘

(国史)

一三〇一年北条貞時が国家の安泰を祈つて寄進。鎌倉時代の代表的な梵鐘である。